

和地ひとみレポート No.370



“コカ・コーラボトラーズジャパン（株）”ならびに “ユニ・チャーム（株）”と地域活性化包括連携協定を締結 民間企業との連携により様々な効果を実現

■東大和市の民間企業との連携

…11月1日発行の市報の1面では、東大和市がコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社と地域活性化包括連携協定及び関連協定を締結したことが取り上げられていました。

…あらためていうまでもなく、決して財政的にゆとりがあるとは言えない自治体においては、防災に限らず公共に関わるさまざまな問題や課題について、行政が直接的、網羅的に対応することが困難となっています。特に災害時の対応については、公助限界を補う取り組みが必要とされており、昨今は多くの自治体が民間企業などと防災協定を締結する動きを進めています。

…東大和市においては、他市との災害時の相互協力協定を6件、東京都などとの協力協定を7件締結しているほか、民間団体、企業などとの防災協力協定を49件締結している状況です。

■防災以外の分野でも

…また現在は環境問題も世界的に課題となっています。特に2015年に「持続可能な開発目標」(SDGs (エス・ディー・ジーズ): Sustainable Development Goals) が国連で採択されてからは、経済、環境、社会の諸課題を包括的に解決するには環境問題は無視できない状況で、多くの自治体、企業が課題解決の取り組みをスタートさせています。特に企業においては、近年のSDGsの認知度向上を受けたと同時に、企業の社会的責任(CSR)の延長線上で信頼度の向上に関連する効果(ブランディング、増収増益、人材獲得など)や新たなビジネスチャンスにつながるなどといったメリットもあるため、積極的に取り組むところが多くなり、その取り組みの中には、自治体と企業が協力することで課題解決ができるものも多くあります。

…東大和市は、市民・事業者・行政の三者が一体となって取り組む「環境にやさしい資源循環型社会」の実現を目指していますが、これもSDGsに向けた取り組みといえます。そのような中、東大和市は今年の5月に株式会社セブン-イレブン・ジャパン、日本財団及び東大和市清掃事業協同組合の四者が連携して行うペットボトルの回収・再生事業もスタートしており、市内のセブン-イレブン全店にペットボトル自動回収機を設置。そして市としては、今後、このリサイクルの仕組みを市内全域にまんべんなく設置することを目標に、他の連携できる企業を探していました。

…ちなみに、昨年度のペットボトルの行政回収量(市が回収した量)は前年度より約20トン減少。すべてがセブン-イレブンに設置した自動回収機の効果とは言えないながらも、市のゴミ処理経費の削減と環境負荷の削減に大きな効果があったと言えます。

■ボトル to ボトルの取組み

…そして、この度のコカ・コーラボトラーズジャパン(株)との地域活性化包括連携協定及び関連協定の締結を通じて、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)と東大和市は、地域の暮らしの安全・安心・災害対策に関すること、環境保全に関することなど多岐にわたる分野において東大和市の地域活性化に向けて連携することに。その最初の具体的な取組みは、協働によるペットボトル回収事業と飲料自動販売機を活用した災害対策(災害対応型自動販売機を、避難所・避難場所などに設置し、災害時=災害対策本部が設置された際には飲料を無償で提供するなどの自動販売機を活用した支援を行う)とされました。

…コカ・コーラボトラーズジャパン(株)と全国の5社のボトリング会社などから構成されるコカ・コーラシステムが目指す「容器の2030年ビジョン」において、同社はパートナーとの協働による着実な容器回収・リサイクルスキームの構築などに取り組んでいます。その取組みが東大和市の取組みや目標と合致したため、今回締結した協定締結が実現。今後は、使用済みペットボトルを回収・再生して新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトル to ボトル」の促進を目的に「ペットボトル自動回収機」をコカ・コーラボトラーズジャパン(株)が順次、東大和市内に設置することとなっています。

■ユニ・チャーム(株)との連携は

…また、東大和市は10月30日にユニ・チャーム株式会社とも災害対策、健康増進や子育て支援など7分野における「地域活性化包括連携協定書」を締結しました。

…この協定締結についてユニ・チャーム(株)は「本活動は、2015年に国連で採択された『持続可能な開発目標』(SDGs)で定めた17の目標のうち、『3. すべての人に健康と福祉を』『7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに』『8. 働きがいも経済成長も』『9. 産業と技術革新の基盤をつくろう』『12. つくる責任 つかう責任』『15. 陸の豊かさも守ろう』『17. パートナリシップで目標を達成しよう』という7つに貢献するとユニ・チャームでは考えています。

当社はこの事業を通じて地域社会の課題解決に貢献し、お互いの(東大和市と同社の)連携をさらに強めることで、共生社会の実現を目指してまいります。」とホームページ上でコメントしており、この東大和市との協定も東大和市の目標とユニ・チャーム(株)のSDGsに対する取組みや目標とが合致したために実現したことがわかります。

(裏面に続く)

■協定の内容は

…このユニ・チャーム（株）との協定内容も主なものは“災害時の協力”と“廃棄物の削減、リサイクル”ですが、今回の協定では以下の7分野について連携するとされており、現時点で示せるユニ・チャーム（株）から東大和市に協力・提供できる取組み内容も挙げられています。

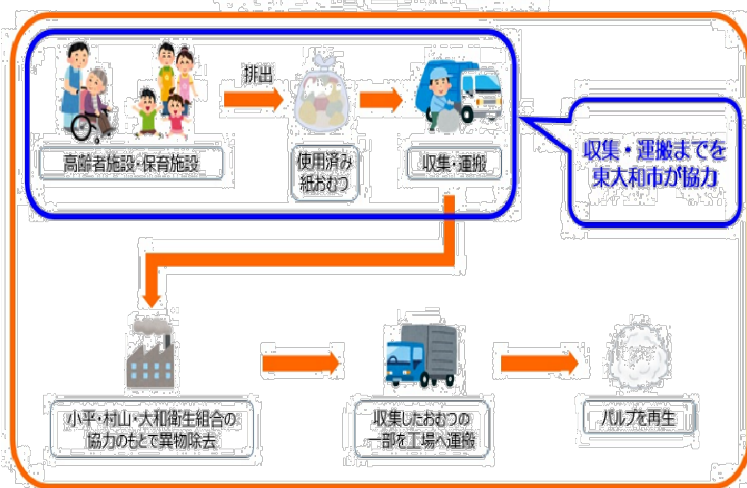
【ユニ・チャーム(株)と東大和市との「地域活性化包括連携協定書」に定めた7分野】

- (1) 災害対策及び防災に関すること。
- (2) 子ども・青少年の育成支援及び子育て支援に関すること。
- (3) 健康増進に関すること。
- (4) 環境対策に関すること。
- (5) 高齢者・障がい者の支援に関すること。
- (6) 女性の活躍推進に関すること。
- (7) その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

【取り組みの内容】

- (1)「災害対策及び防災に関すること」として、災害発生時に市の要請に応じて支援物資に、紙おむつ、生理ナプキン、マスク、ペット用品などの衛生用品を提供。
- (2)「子ども・青少年の育成支援及び子育て支援に関すること」や(6)「女性の活躍推進に関すること」として、アニマルセラピーによる動物介在教育支援や働き方改革講座を提供。
- (3)「スポーツ・健康増進に関すること」や(5)「高齢者支援・障がい者支援」として、健康寿命延伸の取り組みの提案や介護予防講座を提供。
- (4)「環境対策に関すること」として、2020年度東京都が実施する「使用済み紙おむつのリサイクル推進にむけた実証事業」を行う。

ユニ・チャーム(株)のリサイクル実証事業のイメージ



■紙おむつリサイクルとは

…ユニ・チャーム（株）と東大和市が取り組む(4)「環境対策に関すること」は、東京都が資源の循環利用を進める観点から推進している使用済み紙おむつのリサイクルに向けた取り組みです。ユニ・チャーム（株）は、2015年より使用済み紙おむつを再資源化するプロジェクトを開始し、2016年12月からは鹿児島県志布志市や大崎町とともに実証実験を行なってきています。この実証実験を通じて、パルプ等を衛生物品に利用可能なレベルまで再生する技術の確立、洗浄・分離時に使用する処理水まで再利用した「総循環型モデル」を推進しているため、今回の東京都の公募に応募し、選定されました。ただし“東京都の自治体と協力して行うこと”が選定の条件。そこで、同社は東大和市と協定を締結し、東大和市内の高齢者施設や保育園、収集運搬会社の協力のもと、この取組に必要な使用済み紙おむつの分別収集や運搬に関連する課題を解決し実証実験ができることとなりました。

…使用済み紙おむつは、水分で嵩（かさ）が増す、また、水分が多く燃やす際に焼却炉を傷めることもありゴミ処理にとって大きな負担となっています。さらに高齢化で大人の紙おむつは今後、増加傾向。環境省の調査では、2015年度の一般廃棄物に占める紙おむつの割合は4.3～4.8%、年間で約191～210万トンに対し2030年度の予測では、一般廃棄物に占める紙おむつの割合は6.6～7.1%、年間で約241～261万トンとさらに増加すること。東大和市でも可燃ごみの5%ほど約730トンが紙おむつとなっています。

…今回は、収集、運搬、分別についての検討が主なもので、ほとんどは分別状況を確認した後焼却することですが、一部は鹿児島県のプラントに運んで実際にリサイクルすること。ユニ・チャーム（株）は鹿児島県の実験プラントで、使用済み紙おむつから、再び紙おむつに使える品質のパルプを取り出すことに成功しているため、今後はリサイクル素材を使った紙おむつを、回収した市内の施設で使用してもらえれば…と計画しているとのこと。

■様々なところにアンテナを張って

…これらの協定のほかに東大和市はHOYA株式会社との協定により、使い捨てコンタクトレンズ空ケースリサイクル事業も行っています。これらの取組みは、財政にも環境にも効果を発揮する取組み。市のゴミや環境に関する担当部も様々な情報収集を行っているようで、そうした外に対する動きや情報収集により、都内で初の今回の2社との協定締結が実現し、災害時の協力などリサイクル分野以外の協力関係も結ぶことができました。民間企業との連携が不可欠なこれからの自治体は、様々なところにアンテナを張って情報を収集することが必要。そして、役所内の縦割りを無くし連携することで、市民サービスの向上が実現するということを今回の協定締結で実感しました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102